

私たちは、過去 22 年連続インターハイ出場という伝統を持つ安芸府中高校空手道部について、取材した。

第 35 回

広島県空手道選手権大会(兼第 66 回国民体育大会強化選手選考会)

静かで、和やかな雰囲気が流れていた。
大会 1 週間前の練習風景。
落ち着いて練習メニューをこなしていた。



空手道部顧問の中山先生は、
「まとまりを大切にしながら指導をしている。」
と語った。

柿本選手の型練習を見て、中山先生は的確な指導し、彼はその指導を受け一緒に実践していた。

柿本選手は目標である、前大会の 3 位より上を目指していた。
「リラックスしながらも集中。」
と彼は言っていた。
とても集中しやすい環境にあった。

大会当日。
会場に入っすぐ、選手の多さに驚いた。
私たちは大会に出場すると聞けば、高校生なら高校生だけ、中学生なら中学生だけというように会場が別々なものだと考えていた。
だが、この大会に関しては幅広い年齢層の人たちが同じ会場で 1 日かけて戦っていた。



大会が始まった。
レディー・ガガの曲で入場。
他のスポーツでは見慣れない光景だと思った。

それほど緊張感が伝わってくるわけではなかったが、試合が始まったとたんマットの上では、なんとも言えない緊張感に包まれた。

その緊張感の中、彼らは一生懸命競技をしていた。
一つ一つの型競技には、迫力と力強さがそなわっていた。

柿本選手は、マットの外ではリラックスしながらも他の選手の型競技を集中して見ていた。



私たちは初めて柿本選手の演技を見て、言葉が出なかった。
迫力と、気合が伝わってきたからである。

少年男子型個人の予選Ⅰを1位で通過し、予選Ⅱでは3位。
決勝トーナメントでは、予選Ⅱで2位の選手に惜しくも3対2で破れ、3位という結果に終わった。

演技後のインタビューでは、
「悔しい。」
と顔を曇らせた。
“3位より上”という彼のかかげた目標を達成できなかったからだ。



しかし、柿本選手は試合中の険しい表情とは
うってかわり、インタビューでは優しい
笑顔をたくさん見せてくれた。

柿本選手の強さの裏には、もちろん彼自身の努力もあるが、なによりも顧問である
中山先生、部員である小佐古、柿本(妹)の心強いサポートがあったからだと私たちは
感じた。

この大会で3位に入賞した柿本選手は、広島県の強化選手として選ばれた。
その後、中国地区空手道選手権(国民体育大会中国ブロック大会)に出場し、3位入賞
を果たした。
そして第66回国民体育大会(10月8～10日：山口県)に、中国地区の代表として
出場することが決まった。

これからも、彼らの活躍に期待したい。



レポーターキャラバン スマイル特派員
安芸府中高校 2年
工藤 桃子
森嶋 成美